

メバチ 大西洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：17 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳で始まり、4 歳以上で全個体が性成熟に達する
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

利用・用途

刺身、すし、缶詰等に利用されている。

漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の約 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は概ね 6 万～8 万トンで推移し、2024 年の総漁獲量は約 5.5 万トン (暫定値) で、総漁獲可能量 (TAC) (6.2 万トン) を下回った。2024 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約 64% であり、まき網の漁獲は約 20% である。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

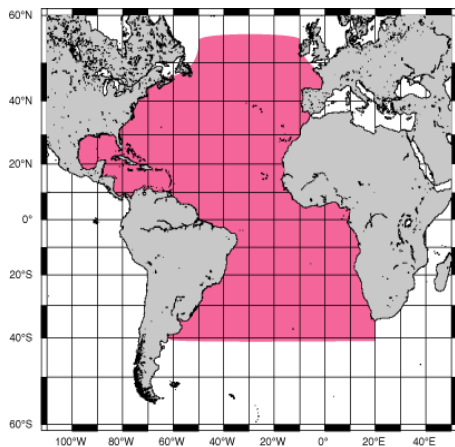
資源状態

ICCAT の科学委員会は、2025 年に資源評価を実施し、統合モデル (SS3) による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY) : 8.0 万～11.4 万トン (中央値 8.6 万トン)、MSY を実現する漁獲死亡係数 (F) 及び産卵親魚量 (SSB) に対する比は、各々 F/MSY : 0.36～0.98 (中央値 0.59)、SSB/SSBMSY : 0.81～1.85 (中央値 1.23) と推定され、資源状態は乱獲状態であるが過剰漁獲ではないとされた。2025 年時点の TAC (7.3 万トン) を維持した場合、2038 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率は 90% 以上とされた。

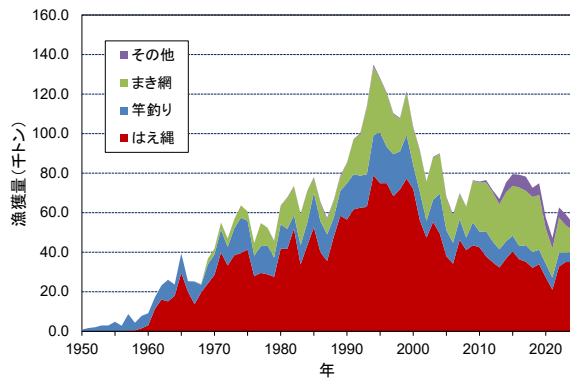
管理方策

2025 年の資源評価を受け、2025 年 11 月の ICCAT 年次会合にて熱帯まぐろに関する管理措置が議論されたものの、合意には至らず、2026～2027 年の TAC は、現行措置である 7.3 万トンが引き続き適用されることとなった。日本の漁獲枠についても 13,865.86 トンが引き続き適用となる。また、まき網等の FAD 操業についても、2026～2027 年の条約区域全体での FAD 禁漁を、現行の 45 日間の措置を引き続き適用することとし、一隻あたりの FAD 数の上限については、2025 年の 300 基から 2026～2027 年は 288 基まで削減する措置が適用される。

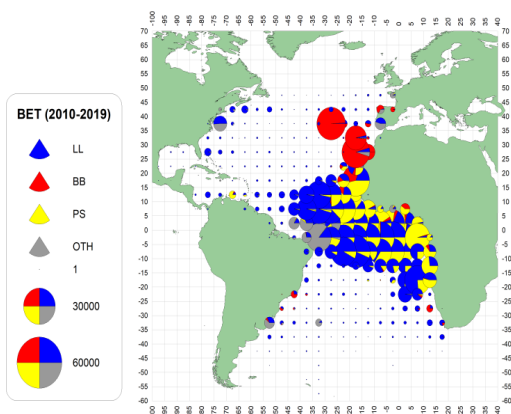
メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	4.7万～6.3万トン 最近(2024)年:5.5万トン 平均:5.6万トン(2020～2024年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.9万～1.4万トン 最近(2024)年:1.4万トン 平均:1.1万トン(2020～2024年)
資源評価の方法	統合モデル(SS3)による解析
資源の状態 (資源評価結果)	$F/F_{MSY} = 0.36 \sim 0.98$ (中央値 0.59) $SSB/SSB_{MSY} = 0.81 \sim 1.85$ (中央値 1.23) 2023年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない
管理目標	MSY: 8.0万～11.4万トン(中央値 8.6万トン)
管理措置	OTAC 2026～2027年:7.3万トン(日本:約1.39万トン) ○FAD操業の禁漁期 条約区域全体で45日間(2026～2027年) ○FAD数制限 1隻あたり288基まで(2026～2027年)
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2025年
次回の資源評価年	未定



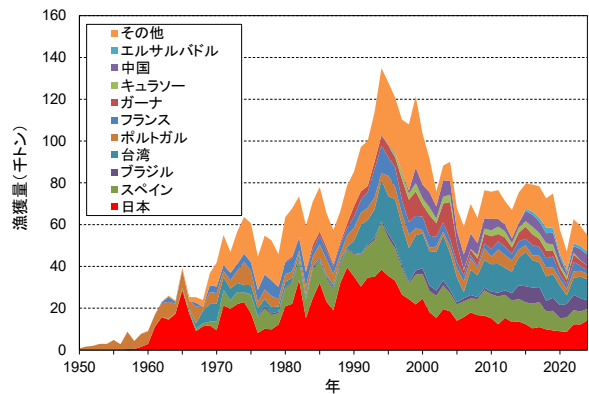
大西洋におけるメバチの分布



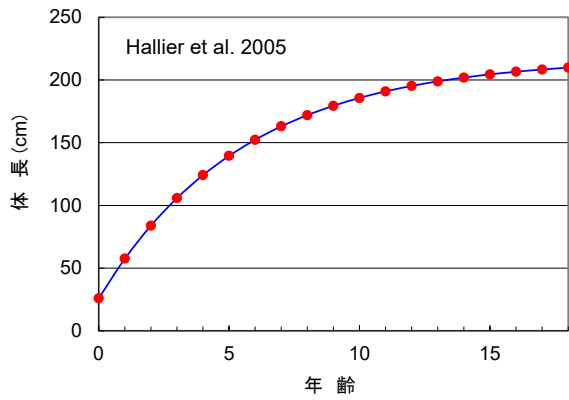
大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量(1950～2024年)



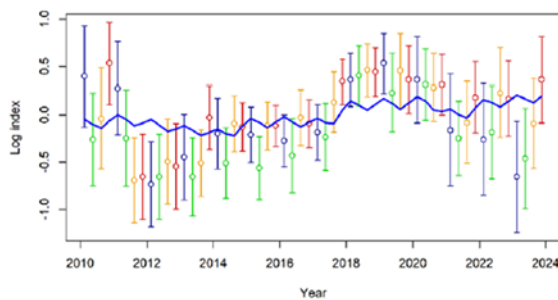
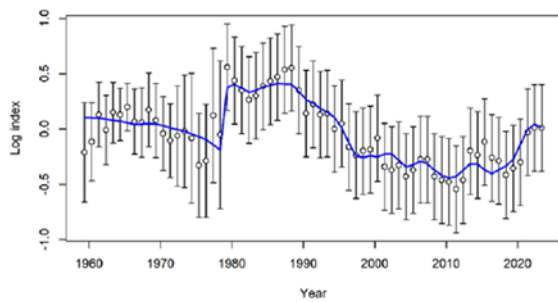
主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布(2010～2019年)
青:はえ縄、赤:竿釣り、黄:まき網、灰:その他。
凡例の丸は上から3万トン、6万トン。



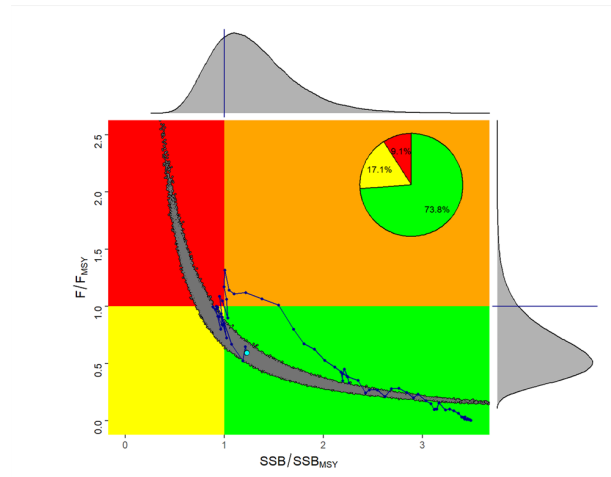
大西洋におけるメバチの国・地域別漁獲量(1950～2024年)



標識放流、脊椎骨及び耳石から推定されたメバチの成長曲線



資源評価モデルに用いた標準化 CPUE
 白抜き丸とエラーバーは標準化 CPUE とその誤差を示し、
 青線は資源評価モデルが推定した値を示す。
 上：はえ縄総合 CPUE (1959～2023 年)
 下：FAD 漁業に用いるエコーサウンダーのデータを利用した
 小型魚の資源量指数 (2010 年第 1 四半期～2023 年第 4 四半期)



SS3 の 18 シナリオで推定された資源状態の推移
 青丸は 2023 年の状態を示し、灰色で塗りつぶされた範囲はその 95%信頼区間を示す。黒丸を結ぶ線は、状態の年変動 (1950～2023 年) を示す。